

アフタヌーンコンサート デンハーグピアノ 五重奏団

平成 29 年

2 / 12 日

開場：13時30分 / 開演：14時00分

バレンタインスペシャル 名曲アラカルトコンサート

フォルテピアノで聴く 19世紀熱狂のパフォーマンス



出演者

小川加恵 (池田町出身) (フォルテピアノ)
バディアロヴァ・朋絵 (ヴァイオリン)
朝吹園子 (ヴィオラ)
山本徹 (チェロ)
角谷朋紀 (コントラバス)

入場料

全自由席：1,000 円

未就学児童の入場はご遠慮ください
託児あり (無料・2週間前までに要予約)

販売所

WEB <http://www.og-bunka.or.jp>
大垣市サイトピアセンター 受付 (文化会館 1 階) 0584-74-6050
大垣市民会館 受付 0584-89-1111

プログラム (予定)

モーツァルト ピアノ協奏曲第 1 番二長調より第 1 楽章
ハイドン 「ジプシー・トリオ」より第 3 楽章
ベートーベン ピアノソナタ「月光」より第 1 楽章 (ピアノ五重奏版)
シューベルト ピアノ五重奏曲「ます」より第 4 楽章
ウェーバー 「舞踏への勧誘」(ピアノ五重奏版)
ショパン 「ノクターン」作品 9-2 (ピアノ五重奏版)

チケット発売日

WEB、友の会 平成 28 年 11 月 4 日 (金)
一般 平成 28 年 11 月 11 日 (金)
(初日に限り、窓口は 9 時、電話は 13 時から)



SUITOPIA CENTER
OGAKI CITY CULTURAL FOUNDATION

みんなで築こう 人権の世紀
～考えよう相手の気持ち 未来へつなげよう違いを認め合う心～

【主催】公益財団法人 大垣市文化事業団 (大垣市指定管理事業)
【後援】一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会 (ピティナ)
【お問合せ】(公財) 大垣市文化事業団 事業課 事業係
<http://www.og-bunka.or.jp/>
TEL 0584-82-2310

PROFILE

デンハーグピアノ五重奏団

世界的にも珍しいフォルテピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの楽器編成によるピアノ五重奏団。2009年、オランダ、ユトレヒト国際古楽音楽祭でデビュー後、2011年、第16回ファン・ワセナル国際古楽コンクール(オランダ)にて第1位を受賞。2012-2013年、オランダにて同コンクール優勝記念公演を行ったほか、バルセロナ国際古楽音楽祭(スペイン)、フラサント国際古楽音楽祭(フランス)、アントワープ国際古楽音楽祭(ベルギー)、ヨーク国際古楽音楽祭(イギリス)などヨーロッパの主要な国際古楽音楽祭に多数出演。

2012年にはデビュー作品「19世紀における珠玉のピアノ五重奏作品集 Vol.1」(MAレコード/キングインターナショナル)をリリース。日本国内においてもオリジナル楽器による室内楽の普及に積極的に努め、日本各地の主要コンサートホールによる主催公演に出演するなど、その活動を広げている。

ホームページ URL : <http://denhaagpianoquinte.wix.com/denhaagpianoquintet>



小川加恵 (フォルテピアノ)

池田町出身。東京藝術大学、デン・ハーグ王立音楽院修士課程フォルテピアノ専攻修了。デンハーグピアノ五重奏団を2008年に結成し、ヨーロッパ各地の主要な音楽祭に出演。2011年オランダ・ファンワセナル国際アンサンブルコンクール第1位。2012年MAレコードより『19世紀における珠玉のピアノ五重奏曲集 Vol.1』をリリース。



バディアロヴァ・朋絵 (ヴァイオリン)

桐朋学園大学、デン・ハーグ王立音楽院修了。ヨーロッパの様々なアンサンブルやオーケストラでソリスト、コンサートマスターを務める。レス・エスプリ・アニモを結成し、主要な音楽祭に招かれている他、ハルモニア・ムンディレーベルよりCDをリリースし、BBC、ラジオフランス、ロンドン紙等メディアにも多く取り上げられ話題を呼んでいる。



朝吹園子 (ヴィオラ)

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程修了。スイス・バーゼル・スコラ・カントゥルムを最優秀の成績で卒業。スイス国内主要オリジナル楽器オーケストラのメンバーとして、様々なCD録音にも携わる。2004年第9回コンセール・マロニエ弦楽器部門第1位。2006年第18回宝塚ベガコンクール第1位



山本徹 (チェロ)

東京藝術大学大学院及びチューリヒ芸術大学修了。2008年第16回ライブツィヒ国際バッハ・コンクール第2位、2011年ブルージュ国際古楽コンクール審査員賞及びファン・ワセナル国際アンサンブルコンクール優勝。ヨーロッパ各地の主要な音楽祭に出演。バッハ・コレギウム・ジャパンやオーケストラ・リベラ・クラシカのメンバーとしても活躍中。

photo: Imura Shigeto



角谷朋紀 (コントラバス)

東京藝術大学楽器科卒業。デン・ハーグ王立音楽院修了。ヨーロッパの数多くのオーケストラ、アンサンブルにて演奏してきた。2011年デンハーグピアノ五重奏団のメンバーとしてオランダ・ファンワセナル国際アンサンブルコンクール第1位、同時に最優秀演奏者賞を受賞。

フォルテピアノについて

銘器ヨハン・ゲオルク・グレーバー (Johann Georg Gröber) は、1820年頃のインスブルック (オーストリア) で製作されている。シューベルトがピアノ五重奏「ます」を作曲したのが1819年のこと、まさに時代を象徴する楽器なのである。この楽器は現代のピアノと異なり「ウィーン式アクション」と呼ばれる特別な打弦機構を備えている。それは「跳ね上げ式アクション」とも呼ばれ、打弦側 (演奏者側) を向いて取り付けられている軽いハンマーを槌子の原理で跳ね上げ打弦するというシンプルな構造を持つ。そのためタッチが軽く、音色は明快で華やか、きわめて繊細な指先の動きにも俊敏に反応し、さまざまなニュアンスを引き出すことが可能である。

また、現代のピアノにはないユニークなペダルシステムを備えていることにも注目である。19世紀初頭におけるウィーンのピアノには4本から6本の様々な音色効果を生み出すペダルがついており、演奏にいつもの彩りを添えてくれる。



ウィーンのコントラバスについて

18世紀のウィーンでは現在一般に知られているものとは異なった、特徴的なコントラバスが用いられていた。それは全長が2メートルを超える大型の5弦の楽器で、全体としての形が巨大なヴィオラ・ダ・ガンバを思い起こさせるものであった。その特殊な調弦方法により深く力強い音色の低音域、いぶし銀のような音色の高音域を聴くことができ、フォルテピアノとの相性も抜群である。特にハイドン、モーツァルトが活躍していた頃のウィーンで非常に好んで用いられており、様々な楽器編成でこの楽器の独奏部を含んだ室内楽曲、協奏曲など、現存しているものだけでも数百曲が数多くの作曲家によって作曲されている。19世紀に入ると、次第に現在の4弦 (フレットなし) の楽器に改造され、職業音楽家の間では廃れていくのであるが、依然として音楽愛好家の間では、1820年代になっても好んで使用されており、ピアノ五重奏「ます」もそのような状況の中でこの楽器で弾きやすいように作曲されている。

